

カルメル 霊性センターニュース



カルメル会 志村新司祭 宇治での初ミサ(6月3日)

2018年7月

344号

目次

目次	1
心の泉	3
カルメル会の企画案内	23
東京	24
名古屋	27
京都	28
北陸	31
諸所の企画案内	33
郵送お申込みのご案内	46
編集後記	47



心の泉



宇治カルメル会黙想の家 聖堂



第三卷

第十二章 忍耐の訓練、感覚との闘い

3 子

《しかし、彼らはたくさんの楽しみをもっていて、思いのままに生きていますから、患難をそれほど苦しめないであろう」と、あなたは言うでしょう。》

4 主

《万一、望みのものをことごとく持っていて、あなたはそれがいつまでも続くと思うのか。「この世の富む者は、煙のように消えていく」(詩篇 37・20)、過ぎ去った歓楽は何の跡も残さないであろう。そればかりでなく、彼らは生きている時にも、苦々しさ、わずらわしさ、おそれをまったく感じることなく楽しんでいただけではない。なぜならば快樂だと思ふこと自体が、苦しみのもととなることが多いからだ。そうなるのは当然である。むやみに快樂を追えば、不安と苦しさを感じることなく、快樂を味わうことはできない。》

5 邪欲に従うな

ああ、世の快樂は何と短くいつわりに満ちたもの、なんと乱れた汚らわしいものであろう！しかし人間は、それに酔い、盲目になり、事実を悟らず、物言わぬけもののように、この朽ち果てるべき生のわずかな快樂のために、靈魂の滅びを招く。しかし、子よ、あなたは「邪欲に従わず、それを心から追いはらえ」(シラ 18・30)、「あなたの喜びを主に求めよ、そうすれば主は、望むものを与えてくださるであろう」(詩篇 36・4)。

6 怠惰に注意

真実に喜びをもち、私から豊かな慰めを得ようと思うなら、世間の一切のものをさげすみ、快樂を切り離して、祝福と豊かな慰めのあるところを仰ぎなさい。この世の人や物が与える、すべての楽しみから遠ざかれば遠ざかるほど、私のところで強く甘美な慰めを見いだすであろう。しかし、何らかの悲嘆と、自分に対する辛い闘いにあわないで、はじめからそれを得ることは困難である。根強い習慣が、刃向かってくる。しかし、新しい良い習慣によってそれに打ち勝つであろう。肉体は抗議する、しかし精神の熱によって、肉体は抑えられる。古い蛇はあなたをいざない、責めさいなむ。しかし祈りによってそれを追い払うであろう。またその上、あなたが耐え忍んだ苦しきは、蛇があなたのところに戻ってくる入口を閉める役に立つであろう。》



マリアよ、
わたしはあなたを眺めます。

あなたの祈りは
わたしたちに祈りが
何であるか教えてください。

祈りとは自分のうちに
何も残しておくことなく、
全存在をもって
神へ向かう動きであることを。*

16日カルメル山の聖母、20日聖エリヤ
22日聖マリア・マグダレナ、26日聖マリアの
両親の聖ヨアキムと聖アンナ、29日聖マルタの
祝日を祝います。彼らの執り成しを願って、“暑
さにも負けず” 祈りのうちに神との親しさを
深めていく日々でありますように。

エルサレム聖アンナ教会の
マリアに祈りを教える母アンナ

伊従 信子 (いより のぶこ)

* 『神と親しく生きる いのりの道』 聖母文庫、
聖母の騎士社



創造主への賛美（11）

くのり 彰

前回は、東洋に飛び、良寛禅師の手紙の一節をご紹介した。「災難に逢う時節には 災難に逢うがよく候 死ぬ時節には 死ぬがよく候 是はこれ 災難をのがるる妙法にて候」。この言葉がピンと来ない人は、キリストの十字架の神秘は、ますます理解しがたいものとなってくるのではないだろうか。

ところで、良寛が生涯敬愛していた道元禅師は、『正法眼蔵』の「溪声山色」の巻で、蘇東坡（1036-1101）*の偈を冒頭にあげている。

けいせい
溪声すなわちこれ広長舌、
さんしきしょうじょうしん あら
山色清浄身に非ざることなし。
やらいはちまんしせんげ
夜来八万四千偈、
たじついかん こじ
他日如何が人に拳似せん。

以下は玉城康四郎氏の現代語訳。

谷川の音は、そのまま仏の説法。
山の色は、すべて仏の清浄身。
夜来聞く八万四千の偈。
いかにして人に示すことができよう。

私の目の前にみずみずしい緑の木々がそびえ立っている。その見事さは何を物語っているのであろうか。木々の間から聞こえるさまざまな鳥のさえずり…、何も驚かずに聞き流している自分がある。毎年、毎年、四季は違うことなくめぐり来る。だが、その中に神の現存を、私たちはどれだけ感じ取っているのであろうか。

道元禅師が執権北条時頼に招かれ、鎌倉に下向した折、時頼の要請で十首の和歌を詠んでいる。その一つは、川端康成がノーベル賞を受賞した際、ストックホルムでの記念講演の中で紹介したそうである。

春は花 夏ほととぎす 秋は月
冬雪さえて 冷しかりけり

*宋代の詩人。偈とは、悟道の時、その境涯を詩として表したもの。

（続く）

十字架の聖ヨハネのこぼれ話 (126)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

「十字架の聖ヨハネの本質的で深遠な解説」(3)

宮殿とは、時が満ちると来られるキリストの花嫁のためのものです。彼は、下の階の部屋がだれにも蔑まれないように、それらを高め、威厳に満ちたものするために来られるのです。「なぜなら、すべてにおいて、彼は 自らを 彼らに似たものとされ」*だからです。人となった神の子は、すべてを、つまり住居と住人を高め、威厳に満ちたものとするのです。そこで住居やそこに生きる者を汚す者は、神の子ご自身を汚すのです。

表現されている文学ジャンルから言えば、時間と空間において実現されるこの計画の前に、父と子と聖霊の三位一体間の対話が先行していました**。

素朴な観客のまなざし、というよりは宇宙を観想する者のまなざしは、神の歩み、すなわち、その手の業である被造物の内に残された神の指紋を見出すのです。

だれも、人間論的宇宙論的対話、人間と宇宙の対話の魅力に逆らうことはできないでしょう。

ああ 愛するあの方の手で 植えられた
森よ、あつい茂みよ！
おお 花で飾られた
緑の草原よ！
言ってください、あの方が あなた方の間を 通って行かれなかったかを。

説明を求められ、問われた被造物は、いっせいに答えます。

無数の恵みをまき散らしながら
これらの林を 急いで 通り過ぎて 行かれました
そして 歩きながら それらに目を向け
そのみ顔を向ける（その姿を見せる）だけで
それらに 美をまとわせて 行かれました***

* 『初めにみ言葉があった』という福音についてのロマンセ』 125-126 節

**同上、47-98 節

*** 『霊の賛歌』第4と第5の歌

年間第14主日

(マルコ6：1—6)

「預言者が敬われないのは、自分の故郷、親戚や家族の間だけである。」

マルコの福音にイエスがナザレの会堂で教えられたことが述べられています。安息日に会堂で神のメッセージを告げるのは信心深いユダヤ人の誰にでも権利がありました。預言者とは神のメッセージを告げ、神の言葉を受け入れるように人々を集め、彼らの生活を真理と愛に基づくように促すことを託された人です。世界中のどこの預言者でも、いつの預言者でも抵抗と敵意と過酷な死に出会ってきました。自分たちの民に神のメッセージを告げるために召しだされた預言者エレミヤやエゼキエルにその例を見ることができます。神は容易いことを約束していません。不思議なことに真理、愛、正義、自由、平和を促すメッセージが、反対や、敵意、憎しみ、暴力をひき起こします。マルチン・ルター・キング牧師は全ての人間の平等を説いて殺害されました。マハトマ・ガンジーはヒンズー教徒であるのにイスラム教徒と親しくしたために、オスカー・ロメロ大司教は貧しい人たちの搾取を糾弾したために、デイトリヒ・ボンヘッファー牧師はナチの民族主義を攻撃したために殺害されました。このような人たちは次々続いています。

マルコの福音は、イエスがどれほど使命を真剣に受け止め、父なる神に服従と謙虚な心で仕えたかを語っています。イエスは人々の間で預言的でメシア的な使命を実行した真の人でした。私たちは皆、イエスのように宣教者であり預言者であることを思い出す必要があります。私たちは皆洗礼によって預言者となるように召されているのです。私たちは皆、自分の家族、仕事場、友人、仲間たちに福音のメッセージを広めるように召されています。自分のまわりに何が起きていても、私たちの務めは、真理、愛、正義、自由、人々の権利と尊厳を伝えていくことにあります。私たちには妥協できないものがあります；沈黙してはならない時があります。イエスの村の人たちはイエスを知り過ぎて盲目になり、メッセージを聴きませんでした。同じことが私たちにも起こり得るのです。知人を通して、出来事を通して、おかれた状況を通して、神は絶え間なく語りかけています。よく知っている人、好きでない人、全く知らない人、外国の人などを通して語りかけているのに、私たちは神の声やメッセージに気づきません。イエスは故郷の人たちに悲しいことを言われます。「預言者が敬われないのは、自分の故郷、親戚や家族の間だけである。」他の土地の人たちはイエスを熱狂的に歓迎し、イエスの言葉に聴き入りましたが、イエスの故郷の人たちや家族は無視し、冷笑しました。霊的に、心理的に、社会的に、身体的に優れていなくても失望しないようにしましょう。神は私たちが神の道具となることをお望みです。神は私たちに寄り添い、私たちが必要なときに、必要なものを与えてくださいます。

(Sr. Paulina)

年間第15主日 (マルコ6:7-13)

今日のみことばは、イエスが故郷のナザレに帰られて、安息日になって会堂で人々に教えられるも受け入れられず、その後付近の村を巡り歩いてお教えになられた後の場面。十二人の弟子をご自分のところに呼び寄せ、二人ずつ組にして派遣された時の話です。

イエスは弟子を宣教に遣わす際、まず汚れた霊に対する権能をお授けになりました。弟子たちの言葉だけでなく、業によって神の国の到来、福音を告げ知らせるためです。そして旅の支えとなり、身を守る杖1本の他に何も持たない様に、パンも袋も帯の中にお金も持たない様にと。神の国を宣べ伝えるにあたり、必要最小限のものだけを持ち、弟子たちが神にのみ信頼を置き、神にのみより頼む様にして送り出されました。

また旅先、滞在先では、宿を変えない様にとも弟子たちに言われました。弟子たちが違う家々に泊まって右往左往しない様に、人間的な物事に心を奪われるのではなくて、宣教に専念する様に、それは弟子たちを受け入れる人々への配慮でもあったのでしょう。

そして、ひたすら弟子たちが宣教に専念する中で、神の使いである弟子たちの言葉に耳を傾けようもしないところがあれば、足の裏の埃を払い落しなさいと言われました。ユダヤ人が異邦人と見なす仕草を、証としてする様にと厳しいことを命じられた訳です。

イエスの元を離れ、弟子たちは宣教へ旅立ちました。結果はどうだったのでしょうか。多くの悪霊を追い出し、油を塗って多くの病人をいやしたと書かれています。二人ずつ宣教に出かけていった弟子たちですが、彼ら弟子たちとともにおられ、その中で力強く働かれたのは言うまでもなく「神」ご自身です。神がともにおられ働かれる、その姿を弟子たちは目の当たりにしつつ、宣教のために働き、イエスの元に戻ってゆきました。

今も神は私たちとともにおられ、私たちを通して、私たちの中でお働きになります。人を通して行う宣教という手段を以てご自分のこと、神の国の福音を告げ知らせようとなさいます。この神の不思議な計らいに感謝しながら、神の子とされた私たち一人一人、神に心を開き、信頼しながら、より頼みながら、神とともに歩んでゆけますように…。私たちが神の国のための良き道具として働いてゆくことができます様に。

(Fr. 古川利雅)

年間第 16 主日 (マルコ 6 : 30—34)

イエスは飼い主のいない羊のような有様を深く憐れみ、いろいろと教え始められた。

今日の福音で、マルコはイエスのわたしたち人間に対する深い同情と憐れみを強調しています。イエスによって福音宣教に送り出された使徒たちが疲れてきて戻って来たとき、イエスは彼らの労をねぎらい、人里離れた静かなところで休むように促されています。人里離れた場所とは心と体を休め静けさのなかで主と共に過ごし、主の愛に包まれて恵みをいただくことを意味しています。わたしたちは誰でも日々主と共にゆっくり休み、清めていただき、心と体の糧をいただく必要があります。

イエスと使徒たちが舟に乗って群衆から去っていかうとすると、多くの人々が駆け付け後を追いついて来ていました。イエスはこれを見て、羊飼いのいない羊のように思われ深い同情と憐れみに動かされ、すぐに腰をおろして教え始められました。指導者の正しい導きも無いまま、人生の意味を求めている人々は、熱心にイエスの言葉に聴き入り、その力強く慈しみに満ちた言葉は以前聞いたことのないものした。

イエスキリストは善き指導者であり、わたしたちの主です。人類に対する神の慈しみと愛を知らせ、全ての人を神のみ許に集めるためにご自分のいのちを十字架の死に捧げ、弟子たちにもご自分に倣って同じ奉献を懇願されました。十字架の死によって人間の作った囲いや壁、差別は取り除かれ、キリストの教会のための新しい道が開かれました。今、教会はこのキリストの切なる願いを実践していくよう求められています;神から深く愛されている存在であることを教え、全ての人々の幸せのために奉仕して行く使命です。イエスは最後の晩餐の前に、御自ら弟子たちの足を洗い、真に奉仕する姿を示してくださいました。今の教会が全ての人々の役に立ち、責任をもって真の幸せに導いていくものとなるよう、祈る必要があります。また同時にこの世の様々の指導者のために祈らなければなりません。子どもたちの両親や先生、政治的な要職にある世界中の指導者たちのために、心から祈る必要があります。わたしたちの主キリストはわたしたちを正しい道に導く善い羊飼いです。主に従い、ついて行くためには、いつも主に聴くことが出来なければなりません。日常生活の騒音や目標をそらすような言葉を慎重にふるい分け、ただ羊飼いの声に従う決意をしましょう。そうすればどんな危険に遭遇しても恐れることはありません。善き牧者は常に保護して下さり、牧者の願い、思いを遂行して行くための豊かな恵みと力を与えてくださいます。

(Sr. Paulina)

巻き棒からペンへ(33)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

今日では、歴史的な文脈や聖テレジアの人格に関する真摯な研究結果を利用しないならば、もはや過去のように同じことを主張し続けることはできないでしょう。たとえば、『靈魂の城』の導入において、それを書くようにと、グランシアン神父が与えた命令に対する聖女の反応を語る時、ある著者はこう言っています。「明らかに予想していなかったこの要請に対し、聖女は愕然とし、糸巻き棒で糸をつむぐことや他の姉妹たちと共に共同体の行動をするのを止めさせるこの命令を撤回するようグランシアン神父にしつこく頼みました。しかし、長上は譲りませんでした…。聖女がどのようにこの仕事を始めるべきか考えていた時、神はすばらしいビジョンで助けに来られました。聖女が恵みの内にある靈魂をずっと以前から見たいと願っていたので、甘美さと知恵をともなった事柄を準備される主は、はしための望みを聞かれたのです」（イエスのエジディオ、『靈魂の城』の序言、OCD編）。この著者は続けて、彼女が「恍惚状態の中で」この書を書き、その上、原稿は、彼女が祈りの中で見出した言葉だけで一杯であると言っています。（このイタリア語の初版は1950年ですが、これは現在の版に至るまで保存され、同じ序言のまま2010年と2014年に再版されています。）

表現手段としての詩

聖女は、最も深い体験を言葉にするには通常言葉では間に合わない絶えず主張しながらも、みなに理解してもらうために、イメージやたとえを使用しています。「靈魂は、神から呼ばれていると、とてもよく分かります。あまりにもよく分かるので、時にはふるえあがったり、うめき声さえ立てます。きわめて甘美な傷を受けたのを意識しますが、どのようにして、まただれが傷つけたのかは分かりません。花婿に愛の言葉で訴えます。そうせずにはいられないのです。なぜなら、花婿がそこにいるのが分かりますから…。私はこの愛の働きを分かってもらおうと必死になっているのですが、どうしたらよいのか分かりません。愛する方が明らかに靈魂と共にいることを分からせようとするのと、同時に疑うことのできない非常に確かなしるしで靈魂を呼んでいるということは、矛盾しているように思われますから…」(第六の住居 2,2)。

それゆえ、他の仕方では語ることができない表現を、詩の言葉で表現しようとするのです。原則的に、彼女は自分を詩人であるとは感じていません。彼女の最初のいくつかの詩は、おさえることのできない神秘体験から生じたのです。

(続く)

いのちの言葉 7月

わたしの恵みはあなたに十分である。
力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ。

(コリントの信徒への手紙二 12・9)

使徒パウロは、コリントの共同体に宛てて二度目の手紙を書きました。その手紙は、彼の宣教活動の正統性を疑い、激しく議論する数人の信徒に向けて書かれたものです。

その中でパウロは、自分が果たした功績にはまったく触れることなく、むしろ彼のうちで、彼を通して働かれる神ご自身の業に焦点を当てています。

パウロは、神との神秘的な体験をしたこと、そして神と自分との間にある親しい関係¹について分かち合います。でも、それだけではありません。

パウロはそのすぐ後、自分を痛めつけているひとつの「棘」^{とげ}について語っています。その「棘」が何であったかは、正確にはわかりません。しかし、パウロの宣教に支障をきたすほど大きな苦しみであったことは確かです。

この苦しみから解放してほしいと神に何度も願ったのに、思いもよらぬ答えが神から返ってきたと、パウロは打ち明けています。

私たちは皆、誰ひとり例外なく自分の肉体的、心理的、精神的な弱さを日々体験しています。そして私たちの周囲でも、苦しみ、悩んでいる人を目にしています。無力で弱い私たちは、困難に立ち向かうことも出来ず、自分はただ誰にも迷惑をかけないようにするだけで精一杯だ、と感じることもよくあります。

しかし、パウロの体験は、このような私たちに光となります。なぜなら私たちもパウロのように、自分の弱さを知り、そのすべてを受け入れながら、御父の腕の中に完全に自分を委ねることができるからです。御父はあるがままの私たちを愛し、私たちが前進できるよう支えたいと、切にお望みなのですから。

パウロの手紙をさらに読んでいくと、彼は「私は弱いときにこそ、強いからです」²と断言しています。

キアラ・ルービックは、今月のみ言葉について次のように記しています。

「こんな矛盾に満ちた逆説的な考えには、ついていられないと思うでしょう。でもまさに、キリスト教の信仰と真理の極みがここに明示されています。事実、イエスはその生涯、特にその死を通して、この真理をはっきりお示しになりました。

御父から委ねられた救いの業を成し遂げられ、人類を救われたとき、また罪に打ち勝ったとき、さらに十字架上で、無に等しい者となられ『わが神、わが神、なぜ私を見捨てられるのか』と叫ばれたときのイエスを思い出して下さい。

イエスは、『最も弱かったときに、最も強いものとなられた』のです。

イエスは、素晴らしい説教、奇跡や驚くべき業を通して、新しい神の民を生み

出すこともおできになったでしょう。しかしそうはなさいませんでした。なぜなら教会は神のみ業だからです。神のみ業は、唯一苦しみを通してのみ、生まれてくるからです。

確かに私たちは、自分の弱さを体験しています。しかし、その弱さのうちにこそ、『キリストの死と復活の力』を私たちが体験できる唯一、特別なチャンスが隠されているといってもよいでしょう。』³

このみ言葉は神の考えと、そのなさり方が、自分の力にのみ頼る人のそれと、どれほど異なるかを分かせてくれます。

「柔かな人は地を受け継ぐ」⁴とイエスは約束されますが、この福音の言葉にもそれが示されています。

また、聖マリアはマニフィカト（マリアの賛歌）⁵の中で、主の力ある業をほめ讃えています。謙遜で小さなものである彼女の上に、世代を超えて代々とこしえに、神の偉大な業が示されたからです。

キアラは、今月のみ言葉をどのように生きることができるとについて、こう語っています。

「私たちキリスト者に求められるのは、この世が選ぶ生き方とはまったく逆で、世の風潮に逆らう生き方です。

この世は成功すること、権力や名声を得ることを理想としています。^{ひるがえ}翻ってパウロは、『自分の弱さを誇りにしなさい』と私たちに語りかけます。

皆さん、私たちも神に信頼しましょう。神は私たちの弱さ、私たちの無の上に働かれるお方なのですから。

神が働かれるときには必ず、永遠に価値ある業がそこに生まれてきます。そして、あらゆるところに善がもたらされ、個人や共同体すべての人の真の必要が満たされるようになるのです」⁶と。

レティツィア・マグリ

いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

いのちの言葉の集い み言葉を生き、実りを分かち合うために

関東 7月8日(日) 13:30～ 神奈川 カトリック藤沢教会 204号室
(週日に、調布、鷺沼、戸塚、厚木、千葉、浦和、鹿沼でも)

中部 7月8日(日) 14:00～ 瀬戸市みずの坂 サポートハウスゆうや
8月11日(土) 14:00～ カトリック緑ヶ丘教会(名古屋市緑区)

長崎 7月22日(日) 11:00～ カトリック浦上教会 要理教室

連絡先: フォコラーレ東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail: tokyofocfem@gmail.com

ホームページ: conil157ch1.wix.com/focolare-jp

¹ コリントニ 11・1-7a 参照

² コリントニ 12・10 参照

³ キアラ・ルービック、*苦しみの力*、*チッタノーバ誌*、44[2000]12.p.7 参照

⁴ マタイ 5・5 参照

⁵ ルカ 1,46-55 参照

⁶ キアラ・ルービック、*私たちの弱さの上に働かれる神*、*チッタノーバ誌*、26[1982]12.p.7 参照

愛は世界の共有である
神の栄のために輝く
私がしたのでも他人がしたのでも
うまれた愛には持ち主は無い

八木重吉のいわば絶筆ともされる「ノート B」のなかの一篇です。

この詩を思い出さざるを得ない、小さな愛らしい絵本を読みました。

毎日愛読する新聞のコラムにこの小さな絵本の紹介があり、心惹かれて手に取ったのですが、ほんとうに小さな小さな絵本で、その小ささゆえにぴったりと近寄ってくる親しさというのでしょうか、何とも言えないとても大切な感じのする絵本「いのちの水」です。

作者はトム・ハーパーという聖公会の司祭で、自身の著作の中の序文に寓話として収録されているものだそうです。

訳者の中村吉基、絵の望月麻生、またこの書を最初に日本に紹介した榎本てる子、の諸氏はいずれもみな日キの牧師とありました。

昔あるところに岩だらけの広大な荒野があり、そこに一本の長い道があつて巡礼者たちが足の痛み、のどの渇き、疲労、不安、恐怖をもって苦勞して歩んでいた。けれどもこの荒野には岩の中から湧き出る泉があつたのです。旅人はこの水を飲み、のどの渇きのみならずより深い欠乏を満たし、歩みゆく元氣をとりもどした。時を経て、この泉への感謝のしるしに石をもってきて記念碑を建てる人たちが現れ、さらに何百年も時を経ながらそれはますます肥大化してゆき、大聖堂となり泉は見えなくなってゆく。実質は徐々に変質してゆきます。人々の中には差別や壁が生じ、水の飲み方扱い方で争いが生じ、勝利者の記念碑はますます高く頑丈になるのです。旅人は恵みのいのちの水を避けて通るようにもなりました。それでも誰か壁の中に忍び込むと、大聖堂の礎石の深い深い底から奇跡のような音が聞こえます。流水のかすかなこだまです。そのとき、人々の目はきまって涙に覆われたのです。

訳文も簡潔で力に満ちて美しく、そして何と云ってもこの絵本のいのちはこの絵だと思いました。消しゴム版画とパステルの組み合わせとありますが、消しゴムの柔らかさパステルの柔らかさ、ほこほことした色合いと線、きっと誰もが知っているであろう和やかさが身を包む感じですよ。

寓話はあまり寓意が押し出されても、たじろいでしまい却って身を引くことになるのですが、この消しゴム版画の絵は、絵本としての楽しい世界を心深くに染み入らせ、寓意はやさしい柔らかさをもって伝わるようです。

私たちが自分の身に深く知っているエゴイズム、閉鎖、排他のこと、狭くは宗派が生じ抱え持つさまざまな問題が語られますが、どれもみな結局は私のことであるのでしょうか。 頁を閉じたとき、消しゴム版画のこの絵の中で、静かに神さまだけと顔を合わせたい、そんなひと時をほしいと、私の心が願っているのを覚えました。

「この小さな絵本が信仰、思想、性別、人種、年齢、価値観、経歴などを越えて一人でも多くの人に読まれることを心から願っています。そしてあらゆる『壁』を打ち壊し・・・」と訳者はあとがきにしるしています。

誰のものでもない、持ち主は無い、世界の共有、・・・ひたすらに恵まれるものを私たちはほんとうに知っているでしょうか。

太陽とか・・・でも、月は区画されて売りに出されるとか、買った人がいるとかそんな話を耳にしたことありましたが、兎さんの餅つきのお話はなくなるのでしょうか。 鳥の声・・・野の花・・・慈雨・・・小さきものの笑顔・・・涙・・・歌声・・・ そういえばベートーヴェンの「合唱付き」を歌い続けている友人が、同じ父を持つ兄弟よ と歌う時、いつもわたしは違うのかなって思うと言っていたのを思い出します。 国境、海域、境界線、垣根、所有財産、・・・ 私たちの営みは隔ての中にあります。

人間同士に起こることで、私に無関係のものはひとつもないと思っています。私は人間であるからです。 最も難しいのは私の心の中なのかもしれません。弱い私自身をどうすることもできないことを、これまでのあわれみを乞うたくさんの涙の内に、そしてキリストの胸の中で私の魂は知ってきました。

八木重吉はキリストの詩を数多く詠んでいます。

基督

キリストを仰ぎて黙す
けわしい路をおもう
キリストにつかまろう
キリストにつかまろう
ふりはなされてもふり離されてもつかまろう

(上野毛教会信徒)

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>
の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2018年6月1日

アフリカ、ザンビアの跣足カルメル会



先月5月12日、ザンビアのチパタ教区のマンジャワントでカルメル会カルメル山の聖母修道院の荘厳な祝福式が執り行われました。そこは5年前にマンジュメル管区が宣教を始めたところで、カルメル山の聖母修道院は、チャミラタにある聖テレジア修道院に続く、本会の第二の修道院です。

宣教のコーディネーターであるヤコブ・パクシィ・アルムカル神父からの情報によると、チパタ管区のモンセニョール・ベンジャミン・フィリ司教が、隣国マラウイのゾンバ教区モンセニョール・ジョージ・タンバラ司教とともに、この式を司式したとのこと。実は、タンバラ司教自身が2009年から2016年の跣足カルメル修道会ローマ本部の総長顧問在位中にこの地での宣教創設を熱心に推進してきました。この式典には、マンジュメル管区の管区長、アウグスティン・ムロア神父も臨席しました。

上記の写真、左は2014年の最初の宣教師グループのもので、右はチャミラタの聖テレジア修道院建設の際の礎石の祝福式です。

カルメル誌 新刊案内



2018年 特集号

「ともに暮らす家を大切に」

—『ラウダート・シ』を生きる—

「エコロジカルな回心」と「総合的なエコロジー」
吉川まみ

長く見落とされてきた
「身近で些細な存在をいとおしむ」スポット・ライト
大瀬高司

人知れず紡がれていく世界の中で
—『ラウダート・シ』の霊性
中川博道

諸宗教対話の立場からひと言
フランコ・ソットコルノラ

自然カルメルの霊性
—十字架の聖ヨハネを中心にして
九里 彰



2018年 夏号 No.369

《霊的生活への招き》

秘跡に養われるキリスト教生活(1) 今泉 健
信仰生活(再)入門
テレーズと共に歩む 幼子の道(2)—神は「父」?
片山はるひ

カルメル会の会則に見る
アシェーシスと修道生活(2)
九里 彰
エディット・シュタイン研究の思い出 須沢かおり
人の生き様と結びついた祈り
—キリストのゲッセマニの園での祈りから
森 一弘

風に吹かれて(16)—観想から得た存在と意味
原 造

キリストに伴われて季節を巡る(2) 伊従信子
祈りを教えてください(2)

—マタイ福音書による隠れた祈り 田畑邦治
聖エリザベトと私たちの日常生活における
御聖体の重要さ ポーリン・フェルナンデス
霊性研究会議義録(1)—霊性について
奥村一朗

ご案内

1冊 520円 A5サイズ 50～70 ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会
信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、700円【520円 (+送料 180円)】程度の献金を下記
へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費 (年5冊：春夏秋冬
+特集号 計 3,500円) を下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会
お問い合わせは事務担当 竹田まで TEL(03)5706-8356

使徒言行録を読む

聖霊に導かれて



14

企画・編集

京都司教区聖書委員会

使徒言行録はルカ福音書の後編として書かれ、初代教会においてどのように福音が宣教されていったかをわたしたちに伝えています。エルサレムでの初代教会、ペトロの宣教、そしてパウロの宣教と受難について述べていくことを通して、使徒言行録の本当の主人公が聖霊であることが明らかにされていきます。カトリック教会で使徒言行録についての解説がほとんどない中、使徒言行録を読んでいくための必修の講話集。



村上 透磨	はじめに
中川 博道	ペトロの宣教
一場 修	聖霊の働き
西 経一	パウロと律法
北村 善朗	パウロの宣教
鈴木 信一	パウロの受難
澤田 豊成	パウロからわたしたちへ

定価 本体 **1,400** 円 + 税
B6 判並製・232 頁・ISBN978-4-8056-3909-2
お求めは聖書委員会またはキリスト教書店で

京都司教区聖書委員会
〒604-8006 京都市中京区河原町通三条上ル カトリック会館7階
TEL: 075-211-3484 FAX: 075-211-3910
E-mail: seisho@kyoto.catholic.jp

オリエンス書籍案内



カルメル会修道院 司祭

中川 博道 神父 著

存在の根を探して

●イエスとともに

天地創造、カインとアベルの物語など、聖書に記された人間の姿、そして十戒の現代的意義や主の祈り、イエスの生き方をていねいに見ていくことを通して、心の奥底での神との生きた出会いへと読者をいざなう。カルメル会での40年にわたる観想生活から生まれた本書は、カルメルの靈性に触れ、味わう入門書として最適です。

主な内容

- ・ 生きることの原点
- ・ 「聴く」という生き方の意味
- ・ 私とは誰？——自らの存在に聴き入る
- ・ 現代という荒れ野を歩む道
- ・ 生きるイエスを捜し続ける教会
- ・ 「心の深い深い、いちばんの奥底」へ



B6判・1700円+税 ISBN978-4-87232-090-9

オリエンス宗教研究所 〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5

TEL : 03-3322-7601 FAX : 03-3325-5322

全国のキリスト教書店、Book Web、オリエンス宗教研究所HPもご利用ください。

最新刊のご案内

修道院の風

宇治カルメル会 修士 原 造・著

競争社会の真ただ中、ある夜、闇の中に流れ来るふしぎな調べに足を止めた。それは、初めて耳にした、心に沁みる祈りの声――。

この世に、しかも身近に、自分のためではなく、神と人びとのために隠れて生きる人びとがいることも知った。そしてそこから、自分の人生設計にはななかった、洗礼、修道生活という新たな世界へと導かれてきた。

これは、修道士となり、人生も黄昏のときを迎えた祈りの日々、折りにふれて綴った随想の風。

著者★原 造（はら つくる）

1946年 群馬県桐生市生まれ。

1991年 男子靴足カルメル修道会入会。

1997年 荘厳誓願宣立。

現在に至る。

5月10日発行

女子パウロ会
新刊案内



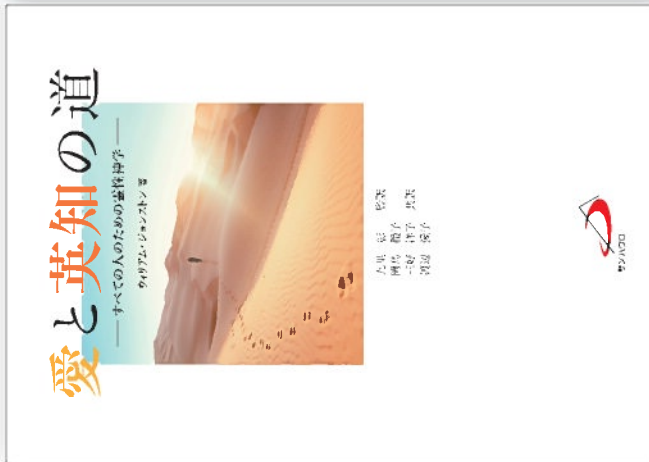
B6判・128頁・定価 本体 1,100円＋税
ISBN978-4-7896-0794-0 C0016 NDC194

愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳
岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生涯の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

第一部 キリスト教の伝統

- 第1章 福音書(1)
- 第2章 福音書(2)
- 第3章 理性対神秘主義
- 第4章 神秘主義と愛
- 第5章 東方のキリスト教
- 第6章 愛を通して生まれる英知

第二部 対話

- 第7章 科学と神秘神学
- 第8章 修徳主義とアジア
- 第9章 神秘主義と根源的なエネルギヤ
- 第10章 英知と(空)

第三部 現代の神秘的な旅

- 第11章 信仰の旅
- 第12章 浄化の道
- 第13章 暗夜
- 第14章 (愛のうちにある)
- 第15章 花嫁と花知
- 第16章 一 致
- 第17章 英知
- 第18章 活動
- 第19章 社会活動の神秘主義

ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を上智大学などで講じる。また、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。





書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

——— 目次 ———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
 - 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
 - 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
 - 4 脱原発の倫理／久保文彦
 - 5 何のために働くのか／神谷秀樹
 - 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
 - 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
 - 8 関係の倫理学／清水正之
 - 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
 - 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
 - 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
 - 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禪
 - 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）

上野毛 霊性センター(東京) (2018年7月～2019年3月)

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院(黙想)**

祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

2018年12月24日(月)～25日(火)朝食≪講話なし、夕食なし≫

聖書深読黙想会 大瀬高司 神父

2018年 9月29日(土)夕食～30日(日)午後4時

12月 1日(土)夕食～ 2日(日)午後4時

日帰り黙想会 13時30分～16時 福田正範 神父

私たちの毎日の生活が神のみことばの光によって照らされますように・・・。

2018年 7月 6日(金) 7月26日(木) 10月26日(金)

11月8日(木) 11月30日(金) 12月13日(木)

2019年 1月11日(金) 1月24日(木) 2月 7日(木)

2月22日(金) 3月 7日(木) 3月22日(金)

*各日、午前から個人静修も可能です。(昼食付)

*申し込みは、3か月前より受付致します。

奉獻生活者のための黙想会 福田正範 神父

2018年

8月 1日(水)17時～ 8月10日(金)朝

8月16日(木)17時～ 8月25日(土)朝

12月27日(木)17時～ 1月 5日(土)朝

奉獻生活者ならびに一般信徒のための黙想会

2018年

10月10日(水)17時～10月19日(金)朝 福田正範 神父

青年黙想会(男女) 35歳位まで

2019年

2月16日(土)16時～17日(日)16時 カルメル会士

召命黙想会(男女) 40歳位まで

2018年

11月23日(金)16時～25日(日)16時 カルメル会士

特別黙想会 Sr. 伊従信子 (ノートルダム・ド・ヴィ)

2018年

11月16日(金)20時～18日(日)16時



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、カルメル会霊性センターニュース、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です(グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ: <http://www.carmel-monastery.jp>

***** 日帰り黙想会 *****

☆☆☆聖人たちをささえた神のことば☆☆☆

「聖書を知らないことは、キリストを知らないことだ」とヒエロニモは言いました。
第二ヴァチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト者は、しばしば聖書を読んでキリストを知るすばらしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示聖章6章25) 信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように・・・

場所：カルメル会聖テレジア修道院(黙想の家)

指導：福田正範神父

※午前中を個人黙想として静修をご希望の方は午前10時～ご利用が可能です。

昼食の準備のためあらかじめご連絡をお願い致します。

費用：午後からのご参加・・・¥2000、午前からのご参加・・・¥3500

日時：2018年 5月11日(金) 午後1時30分～4時

5月24日(木) //

6月28日(木) //

7月6日(金) //

7月26日(木) //



お問合せ・お申込み：

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL. 03-5706-7355

FAX. 03-3704-1780

Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

カルメル修道会 一日静修 in 名古屋

—カルメル会士とともに過ごす聖母の土曜日—

日 時 : 2018年 7月7日 (土) 13時から 17時

テ ー マ : 「 故 郷 」

場 所 : カルメル修道会 日比野 (本部) 修道院 (カトリック日比野教会)

プログラム : 13時 ~ 講話・黙想など
16時 ~ ミサ (ミサ中に教会の祈り)、サルヴェ・レジナ (ミサ後)
17時 解散

- ・受付開始は12時半の予定です。(聖堂には12時からお入りいただけます。)
- ・途中、ゆるしの秘跡の時間を設ける予定です。
- ・プログラムに必要な「祈りのリーフレット類」は、こちらで準備いたします。

そ の 他 : 参加のための事前連絡は不要です。当日、直接会場にお越し下さい。
(尚、当日は、1,000円程度のご寄付を宜しくお願いいたします。)

問 い 合 せ : 郵便、FAX、E-mail の何れかで「カルメル修道会 一日静修係」まで。

郵便 456-0062 名古屋市 熱田区 大宝 4-5-17
FAX 052-681-6445
E-mail hibino@carmel.or.jp

今後のスケジュール

9月15日(土) 10月27日(土) 11月17日(土) 12月8日(土)

何れも原則13時から17時まで。ホームページでもご案内しています。

<http://www.carmel-monastery.jp>

< 主催 > 男子跣足カルメル修道会 日比野 (本部) 修道院 (大瀬神父・ウイラー神父・古川神父)

宇治カルメル会 2018年度 黙想会案内

【一般のための黙想】・1泊2日（午後5時～午後4時）

~~7月14日(土)～15日(日)~~

→変更 7月7日(土)～8日(日)「真の靈性を探す教会」 中川博道神父

9月8日(土)～9日(日) 「人は新たに生まれなければ、
神の国を見ることはできない」(ヨハネ3・3) 九里彰神父

11月23日(金)～25日(日) ※2泊3日「目覚めていなさい」 中川博道神父

【聖書深読黙想会】(午前10時～午後4時)

7月7日(土) 九里彰神父

11月17日(土) 中川博道神父

9月1日(土) 中川博道神父

【水曜の黙想】(午前10時～午後4時)

7月25日(水) 「預言者エリアとカルメル」 中川博道神父

9月26日(水) 私を生まれ変わらせるユウカリスティア Sr.ロサ

10月24日(水) 「ピンチの時は注意深く」 中川博道神父

11月21日(水) 「永遠の命」 九里彰神父

12月19日(水) 私たちの内に宿りたいインマヌエル Sr.ロサ

【聖テレーズの黙想】(午後5時～午後4時)

9月29日(土)～30日(日) 中川博道神父

【カルメル青年の集い】(午前10時～午後4時) 中川博道神父

11月23日(金)

【青年の黙想会】(午後5時～午後4時)

9月15日(土)～16日(日) 中川博道神父

【一般のためのカルメル靈性】(午後5時～午後4時)

10月13日(土)～14日(日) イエスの聖テレジア 中川博道神父

12月8日(土)～9日(日) 十字架の聖ヨハネにおける愛の変容 九里彰神父

【生活の中での靈的同伴】(金曜午後 8時〈夕食なし〉～土曜午後4時)

7月20日～21日 11月2日～3日

9月14日～15日 九里彰神父

【待降節の黙想】 (午後5時～午後4時)

12月1日(土)～2日(日) 「**人となられた神**」 九里彰神父

【奉獻生活者の黙想】 (午後5時～午前9時)

8月5日(日)～14日(火) 九里彰神父

8月16日(木)～25日(土) 中川博道神父

11月6日(火)～15日(木) 九里彰神父

12月27日(木)～1月5日(土) 中川博道神父

祭日のミサに参加するために

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30(講話なし、各食事つき)

【クリスマス】

12月24日(日)～12月25日(月)

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願ひ致します。受付が休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願ひいたします。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457

E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

宇治聖テレジア修道院（黙想）の 「建築基金」への献金のお願ひ

主の平和がいつも皆様の上にありますように

宇治の黙想の家は、1962年に建てられ、すでに54年の歳月が経っております。老朽化が進み、いろいろな点で支障をきたしております。そのため、新しく建て直す必要性が出てまいりました。会内で検討を続けてまいりましたが、財源に余裕がなく、新築計画が頓挫しております。

黙想の家は、キリスト者の霊的生活を培うために無くてはならないものです。またカルメル修道会は、霊的指導を会の固有使徒職としております。この意味でも、また日本の教会のためにも、静かに黙想する場所を、信徒の皆様のために確保してゆきたいと願っております。

建築資金の確保のため、少額でも結構ですので、皆様の御協力をいただければ幸いです。お志のある方は、以下の会本部の銀行口座か郵便貯金口座にお振込みください。その際は、誠にお手数ですが、お名前とご住所、振込み日と金額を、郵便かファックスで本部までお知らせくださるようお願い申し上げます。よろしくお願ひいたします。

三井住友銀行
上前津（カミマエヅ）支店
普通口座：7205805
名義：男子洗足カルメル修道会

郵貯銀行
記号：10040
口座番号：56845391
名義：男子洗足カルメル修道会



男子洗足カルメル修道会本部
〒456-0062 愛知県名古屋市熱田区大宝 4-5-17
Tel：052-671-1558 Fax：052-681-6445

金沢黙想案内

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会 聖堂

14：00～ 講話

14：30～ ベネディクション・聖体祭儀

15：30～ サルヴェ レジナ 終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう



カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076-244-7788

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち1箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 20,360円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 19,130円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号 朝日カルチャーセンター通信講座課

電話 03-3344-2527（直通）

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センター事務局 Srローザ
にお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：九里彰神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srローザ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
慈しみ深き会
サダナ瞑想
詩編の会
マリアポリ (フォコラーレ)

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。



カルメル霊性センターニュース

諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

2018年以降の予定

今後の内観は、希望者の日程や会場・修道院の都合を調整して行います。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターにお問い合わせください。

電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

(新住所)

◎〒662-0003 兵庫県西宮市鷺林寺町3-46 シト一会

西宮の聖母修道院 司祭館

「心のいほり・内観瞑想センター」 藤原神父

FAX 0798-71-5234 Eメール fujinao1944@nifty.com

<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。



真命山 2018年 — 祈りの集いのご案内

毎月第2木曜日 (10:00～15:00)

指導者 フランコ神父

*は聖ザベリオ宣教会ダニエロ・マルケット神父

個人またはグループでの黙想会

研修会も歓迎いたします(要予約)

- 1月11日 五旬節続唱「聖霊、来たり給へ」
2月 8日 聖ボナベンツラの祈り
3月 8日 聖アンセルモの祈り
4月12日 聖フランシスコ・ザビエルの祈り*
5月10日 「サルベ・レジナ」
6月14日 聖心の連願
7月12日 ロヨラの聖イグナチオの祈り*
8月 休み
9月13日 幼いイエズスの聖テレジアの祈り*
10月11日 アッシジの聖フランシスコ作とされている「祈り」
11月 8日 シャールズ・デ・フーコーの祈り*
12月13日 「テ・デウム」

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com



ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1

Tel： 077-579-7580

Fax： 077-579-3804

E-メール： karainorind92@mbe.nifty.com

ホームページ： <http://www.ssnd.jp/>

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8 日間の個人指導による黙想

初日は、18 時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2018 年 5 月 6 日 (日) ～ 5 月 14 日 (月)
- ② 8 月 14 日 (火) ～ 8 月 22 日 (水)
- ③ 10 月 7 日 (日) ～ 10 月 15 日 (月)
- ④ 12 月 27 日 (木) ～ 2019 年 1 月 4 日 (金)

B. 祈りの体験：週末 3 日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2018 年 2 月 2 日 (金) ～ 2 月 4 日 (日)
- ② 2 月 23 日 (金) ～ 2 月 25 日 (日)
- ③ 3 月 16 日 (金) ～ 3 月 18 日 (日)
- ④ 6 月 22 日 (金) ～ 6 月 24 日 (日)
- ⑤ 7 月 13 日 (金) ～ 7 月 15 日 (日)
- ⑥ 9 月 21 日 (金) ～ 9 月 23 日 (日)
- ⑦ 11 月 16 日 (金) ～ 11 月 18 日 (日)

C. 講話 黙想 (奉獻生活者のため)

2018 年 5 月 30 日 (水) ～ 6 月 7 日 (木) 雨宮 慧 師 (東京教区)

◎ 対象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 氏名(カタカナ) 2) 〒住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Fax で「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10 日前までに申し込んでください。 先着順 11 名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい方は
ご相談ください。(但し、上記の日程と 8 月 1 日～8 月 9 日、9 月 1 日～9 月 7 日を除きます。)

2018年度 女子青年黙想会

	日時	テーマ	講師
1	5月26日(土)～27日(日)	マルコによる受難	山内十束師(ご受難会)
2	7月7日(土)～8日(日)	マタイによる受難	山内十束師(ご受難会)
3	2019年 2月16日(土)～17日(日)	ルカによる受難	山内十束師(ご受難会)

場所： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

対象： 独身女性青年信徒

費用： 2,500円 (一日参加も可)

申込み・問合せ： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院 シスター桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

マタイによる受難

2018年度 第2回 女子青年黙想会

日時： 7月7日(土) 15:00 ～

8日(日) 15:30 まで

場所： ノートルダム唐崎修道院 (JR京都駅から30分)

指導： 山内 十束 師 (ご受難会)

対象： 独身青年女性信徒

費用： 2,500円

締切： 2018年7月2日(日) まで

〈申込み・問合せ〉

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会 Sr. 桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

【入門講座】

毎週金曜日 18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本
テーマを取り扱います。無料

- 7/6 イエスの人間関係－罪人と弟子と共に
- 7/13 イエスは誰か－イエスの自己理解
- 7/20 最後の晩餐－自分を与えるイエス
- 7/27 イエスの受難－その史実と意図
※8月全体、12/28、1/4は休み
- 9/7 イエスの復活－今に生きるイエス
- 9/14 聖書のイエス像－ヨハネの見たイエス
- 9/21 聖霊－神の愛に導かれる
- 9/28 祈りの本質とさまざまな祈り方
－神と関わる

【理解講座】

第1・3火曜日 18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。
信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、
キリスト教の中心的テーマを探求します。無料
2年間のコース。途中参加・部分参加も可

[神]

- 7/3 「私は在る」
－旧約における神の自己啓示と預言
- 7/17 神の語りかけ
－「契約」と「救い主」の待望
※8月全体は休み

[イエス]

- 9/4 史的イエス－活動と生き方の特徴
- 9/18 神の国－イエスの使信

【土曜アカデミー】

下記(予定)の土曜日:

9時30分～12時、岐部ホール4階404、
各時代の文章を読んで、思想史一般とキリス
ト教哲学・神学の相互関係を考察します。無料
キリスト教思想史に関心を持っている方。
プログラムの詳細は、別途配布。

参考書:K.リーゼンフーバー著『西洋古代・中世哲
学史』『中世思想史』平凡社ライブラリー
2018年度のテーマ:

近代と現代におけるキリスト教と理性

- 7/14 パスカル:近代の学問とキリスト体験
(17世紀)
- 9/1 ライプニッツ:单子論と共同体(18世紀)
- 9/8 カント:意識における倫理の基礎づけ(18世紀)
- 9/29 フヒヒテ:意識と幸福の諸段階(19世紀)

【神学読書会】

第2・第4木曜日:18時～20時

上智大学内S.J.ハウス、第5応接室。
『リーゼンフーバー小著作集』から霊性と
神学に関する文章を読んで、話し合います。
テキスト:第Ⅲ巻「信仰と幸い－キリスト教の本質」
随時、どなたでもご自由にご参加ください。
※祝日、8月全体、12/27は休み。

【会社帰りの黙想】

毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時

聖イグナチオ教会マリア中聖堂
信仰・宗派を問わず、どなたでも。
随時の参加・遅刻も可。お気軽に。無料
※祝日。8月全体は休み。

【祈りの集い】

下記の土曜日 13時30分～16時

上智大学内S.J.ハウス、第5応接室
講話、黙想、ミサがあります

7/7、8/4、9/15、10/6、11/10、12/1

【ロザリオの祈り】

上記同日のミサに続いて 16時10分～16時50分
クルトゥルハイム1階右テレジア小聖堂

【夕方のミサ】

下記の月曜日 18時～19時

上智大学内S.J.ハウス隣クルトゥルハイム1階右
テレジア小聖堂

7/23、9/10、10/29、11/26、12/10

【坐禅会】

第1、第3月曜日：18時～20時

上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋
2回坐り、間に講話。遅刻・不定期の参加も可。

※祝日、8月全体は休み

【通う霊操】

8/18(土)～8/26(日)毎日18時～20時45分

上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂

第1の講話・黙想18:00－、第の講話・黙想
19:00－、ミサ20:05－。随時、どなたでも。

【黙想会】

上石神井 1泊7000円

10/13(土)10時～10/14(日)14時

申込みの締切りは、初日の10日前

(予定) 関西：9/22(土)13時～9/23(日)15時
宝塚黙想の家 Tel.0797-84-7863 Sr.田中

【坐禅接心】

(予定)

8/10(金)11時30分～8/12(日)12時30分

秋川神冥窟 1泊2400円

申込締切：初日の7日前

参加される方はシーツ2枚と
枕カバーをお持ち下さい。



【感謝のミサ】

7/28(土)14時～

上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂(定員80名)

【クリスマス会】

12/8(土)10時～13時

聖イグナチオ教会岐部ホール4階404

【クリスマスのミサ】

12/23(祝)14時～

上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂

【クリスマスの黙想】

12/25(火)18時50分～20時10分

聖イグナチオ教会マリア中聖堂

—上記の日程に変更がある場合は、
信徒会館1F掲示板でお知らせします。—

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03-3263-4584

クラウス・リーゼンフーバー神父

(上智大学名誉教授)

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

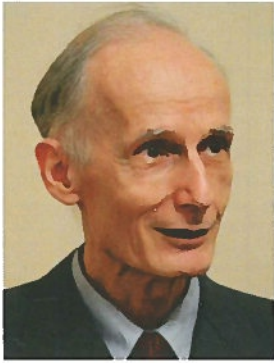
上智大学S.J.ハウス

電話 03-3238-5124(直通)

-5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス
http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と靈性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、靈的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	I 超越体験 一宗教論	定価(本体+税)
	宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想	
	日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質	
	主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」とおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と靈性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論	
	古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに拓けて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践	
	信仰との関わり合いの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー, クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(-2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学の人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知泉書館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
—観想の祈りへの道—

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室
12月のみマリア聖堂（ミサあり）

14：00～16：00

【2018年予定】

1月18日 第13の歌 終了
3月22日 第14及び15の歌（1～14） 終了
5月24日 第14及び15の歌（15～30） 終了
7月26日 第16の歌
9月27日 第17の歌
11月22日 第18の歌と第19の歌
12月20日 第20及び21の歌（1～19）

【2019年予定】

1月24日 第22の歌
3月21日 第23の歌と第24の歌

*参加費無料（献金歓迎）

*問い合わせ先：042-473-6287 篠原

九里彰神父（カルメル会司祭）



※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jesuits.or.jp/>

★申込み受付・・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
サダナ I	7/20(金)17:30- 23(月)16:00	Fr植栗	女子御受難修 道院 (宝塚市)	上田正美 Tel 090-5651-6495
サダナ I	8/16(木)9:00- 18(土)17:00	Fr植栗	札幌(詳細は 右記にお問い 合わせを)	本間 Tel 080-3260-1864 本間不在時 山崎 Tel 090-4720-2157
サダナ I	8/24(金)17:30- 27(月)14:00	Fr植栗	妙高教会 赤倉山荘 (妙高市田切)	佐藤範子 Tel 080-3145-3646
フォロー アップ	9/9(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道 院1F (四ツ谷)	来間(くるま) 裕美子※ Tel 090-5325-2518 045-577-0740 sadhana@7123@yahoo.co.jp
サダナ II	9/13(木)17:30- 17(月)16:00	Fr マルコ・ アントニオ Fr植栗	ラ・サール会 仙台修道院 (仙台市宮城 野区)	松本由美子 Tel 070-6950-4199
I&アド バンス	9/21(金)17:30- 24(月)14:00	Fr植栗	浜松三ヶ日研 修センター (浜松市北区)	来間(くるま) 裕美子※

※不在の場合は、渡辺由子

Tel&Fax : 042-325-7554

◆サダナ I (入門A.B.C)

体の営みと想像とを生かして祈りを深め「神との出会い」と「心の解放」をめざす。


◆サダナ II

Iをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。

◆フォローアップ・・・サダナ I を終えた方。

◆入門C・・・入門Aまたは入門Bを終えた方。





午後の静修<講話・念禱・ミサ>へのおさそい

《 神の母の誕生 》

— マリアとわたしたち —

日 時：2018年9月8日(土)
12時～16時(受付11時)

指 導：中川博道神父 (カルメル修道会)

対 象：どなたでもご参加ください。

※実費費用の為に献金をお願いします。

要申込：住所・氏名・電話番号・所属教会

をご記入の上、

FAX 又はメールにて (返信します)

定員になり次第〆切(6月1日から受付開始です)

FAX:045-402-5131

e-mail:shihennokai@gmail.com

場 所：聖パウロ修道会 若葉修道院

東京都新宿区若葉1-5

JR中央線/営団地下鉄 丸ノ内線・南北線 「四ツ谷」駅下車

サンパウロ→ドンボスコ→ファミリーマートを左折

→甘栗太郎を右折→道なりに右折→90m直進

四ツ谷小学校の正面

主催：「詩編の会」

問合せ：TEL/FAX：045-402-5131 (藤井)

e-mail: shihennokai@gmail.com



申込書

代表者氏名 _____
 代表者住所 _____
 連絡先 血 _____
 E-Mail _____
 ご紹介者 _____

名前	性別	年齢	宿泊	食事
	男	9日		夕
	・女	10日		朝昼夕
		11日		朝昼
	男	9日		夕
	・女	10日		朝昼夕
		11日		朝昼
	男	9日		夕
	・女	10日		朝昼夕
		11日		朝昼
	男	9日		夕
	・女	10日		朝昼夕
		11日		朝昼

★性別・宿泊・食事欄は必要なら高欄に○印をつけてください。

振込金額

参加費	人分	円
献金	他の方への支援献金・会場費等のため	円
振込額		円

申込書は取り取り取らずにFAX かメールでお申し込みください。

参加費

◆宿泊される方

1泊2日 (夕食1・宿泊1・朝食1)
 大人 7,000円
 中・高校生 6,000円
 小学生 5,000円
 未就学児 1,500円

2泊3日 (夕食2・宿泊2・朝食2)

大人 14,000円
 中・高校生 12,000円
 小学生 10,000円
 未就学児 3,000円

◆宿泊されない方

大人のみ 1,000円

※昼食、夕食をご希望の方は予め申込みが必要です。

夕食

大人 1,080円
 小学生 864円
 幼児 540円

参加費に昼食代は含まれていません。昼食は個々に施設内のレストランを利用していただきます。(衛生上持参はできません) 定食や丼ものなど、多彩なメニュー (550円~800円程度) から好きなものを選んでお召し上がりください。

★レストラン利用者数を把握しておくため、申込書の食事欄には記入を忘れずにお願いたします。

申込締切

2018年9月30日 (日)

振込口座

三菱東京UFJ銀行 西荻窪駅前支店
 (普通) 0951732 フォコラーレ会 代表者 黒川眞理子
 ※参加費についてのお問い合わせは、フォコラーレまで、……

＜キャンセル料＞

不泊100%、当日100%、前日80%、9日前20%、20日前10%
 食事：当日80%、前日20%



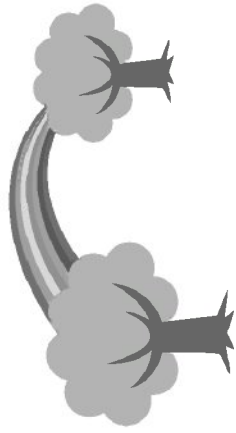
ようこそ マリアの町へ

2018

マリアポリ in 埼玉

～ともに歩もう～

ひとりではなく、つながりのなかで



2018年11月9日 (金) ～11日 (日)

主催：フォコラーレ

お申し込み・お問い合わせ先

フォコラーレ

〒166-0001

東京都杉並区阿佐谷北2-31-12

Tel :03-3330-5619 Fax: 03-5356-6101

E-mail tokyofocfem@gmail.com

プログラム

11月9日(金)

- 15:00~ 受付【大会議室】
- 16:00~17:00 出会いのひととき
- 18:00~19:00 夕食【宿泊棟レストラン】
- 19:30~20:30 ようこそマリアポリへ【大会議室】

11月10日(土)

- 6:00~ 散歩(自由参加)
- 7:00~ 8:30 朝食【宿泊棟レストラン】
- 9:30~10:40 プログラム①【大会議室】

朝のつどい

※子どもたちの別プログラムがあります

- 11:00~12:00 祈りの時間(ミサ)
- 12:00~13:30 昼食【宿泊棟レストラン】
- 14:00~17:00 プログラム②【大会議室】
- 18:00~19:00 夕食【宿泊棟レストラン】
- 19:30~20:30 プログラム③【大会議室】

夜のつどい

11月11日(日)

- 7:00~ 8:30 朝食【宿泊棟レストラン】
- 9:00~10:30 プログラム④【大会議室】
- 朝のつどい
- 11:00~12:00 祈りの時間(ミサ)【大会議室】
- 12:00~13:30 昼食【宿泊棟レストラン】
- 14:00~16:00 プログラム⑤【大会議室】

- ※ 大会議室は研修棟にございます。お荷物は宿泊棟の玄関のコインロッカーをご利用いただけます。
- ※ プログラムは事情により変更することがあります。

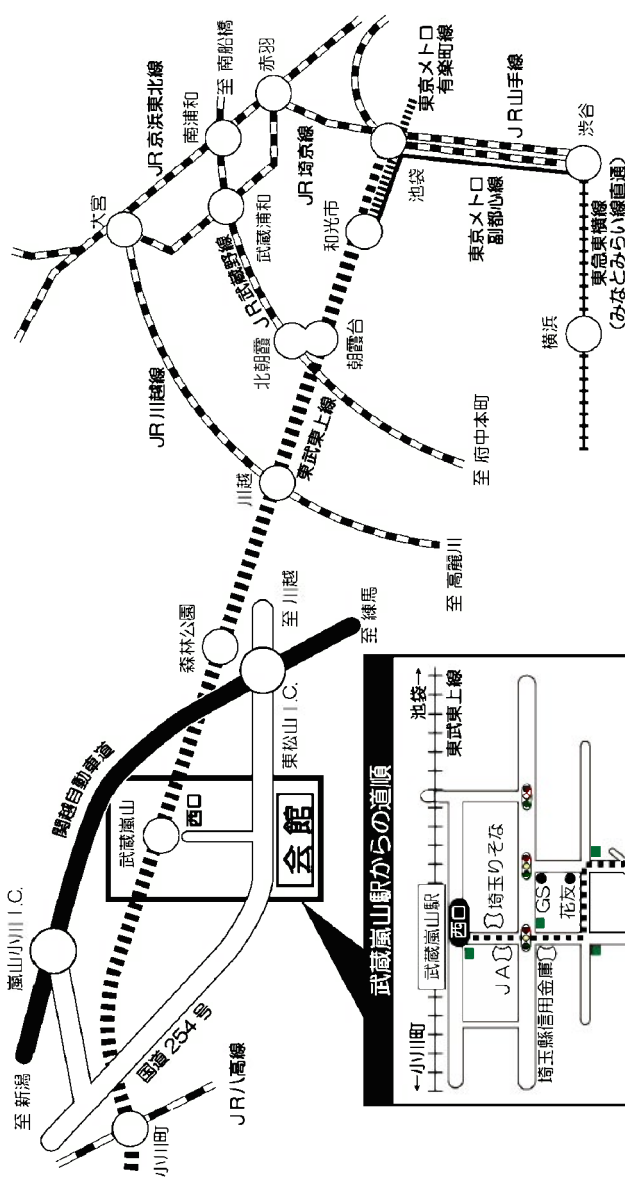


ばしよ：国立女性教育会館

埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728

Tel. 0493-62-6711

<https://www.nwec-bs.jp/>



交通案内

- **池袋駅から** 東武東上線 武蔵嵐山駅まで 急行で約65分 駅からは徒歩で約15分です。
- **川越駅から** 東武東上線 武蔵嵐山駅まで 急行で約31分です。
- ★ 羽田空港から川越駅まではリムジンバスで約100分です。
- **横浜駅から** 東急東横線～東武東上線 直通のドライナーに乗り途中森林公園駅でのりかえて武蔵嵐山駅まで約2時間です。
- **お車で** 関越自動車道を東松山 IC 降りて 国道254号線を通って約15分です。

※ 到着しましたら、プログラム場所へ直接お越しください。

☆☆施設内配置図☆☆

↑ 武蔵嵐山駅



四季の移ろいを楽しめる緑豊かな場所です。

『靈性センターニュース』

* 郵送お申込みのご案内 *

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号~12月号（但し8月号は休刊）となり、
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座（新設）
へお振り込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。
何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457
《変わりました》 reisei@carmel-monastery.jp

「靈性センターへの献金」のお願い（上とは別）

「靈性センターニュース」は、7月より、宇治靈性センター事務局で編集、
印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担し
ております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局
なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



編集後記

今年の三月、何とも痛ましい事件が起きた。船戸結愛（ゆあ）ちゃん5歳が、父親に殴られた後、死亡した。日頃から虐待を受け、1月に現在のアパートに転入後は、一回しか外出しておらず、家の中に監禁されていた模様である。冬はベランダに出され、足はしもやけだらけ、食事が一日一回の時もあり、栄養失調で、体重は5歳児の平均より7キロも少ない12キロしかなかったということである。

結愛ちゃんが覚えたてのひらがなで両親に赦しを請う文章が、先月公開された。

「(日付不明) もうパパとママにいわれなくても しっかりと じぶんから
きょうよりかもっともっと あしたはできるようにするから もうおねがい
ゆるして ゆるしてください おねがいます ほんとうにもうおなじことし
ません ゆるして」

両親はしついでやっただけと言いつつ、あまりにも未熟な人間性には驚かされる。幼児虐待で保護される子供や、いわゆる DV (家庭内暴力) の犠牲者の数は、増えているようである。しかし、彼らもまた、物質主義、自己中心的な個人主義が蔓延する現代日本社会の落し子のようにも思える。成績や肩書など人間の表面だけを評価する風潮の中で、人間として成熟していくこと、心の教育が、家庭でも社会でも、すっぱり抜け落ちてしまった感がある。 (P. 九里)

(お詫び) 今回「みことばのひびき 年間第 13 主日・17 主日」分が担当者の都合により掲載できませんでしたことをお詫び申し上げます。

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています



『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ
一冊 100 円程度の献金をお願い致します

***** 8 月休刊のお知らせ *****

「霊性センターニュース」は、8 月（号）休刊となります。
9 月号は、8 月下旬発送予定です。ご了承下さい。



製本／発送のご協力お願い

「霊性センターニュース」の製本/発送を、2017 年 7 月号より宇治修道院で行う事になりました。発送作業は梱包・宛名ラベル貼りと確認チェック等です。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加も大歓迎です。

次回の製本/発送日 **8 月 2 4 日(金) 午後 1 0 時半頃から**
宇治修道院信徒会館

※ご協力いただける方は、製本/発送日をご確認の上、お越してください。

霊性センター事務局 ☎0774-32-7456